



【梅雨】今年はなかなか梅雨入りになりませんね。梅雨の長雨のお蔭で日本の田植えができます。大地はたっぷり水と水を貯蔵し、野山の緑は豊かになり、夏の暑い時期にも涼水を供給してくれる。西欧では生水はそのまま飲めないことが多いし、砂漠の国ではコップ一杯の水が石油一杯より高価なのです。雨の恵みにはただ感謝のみ。梅の熟する頃に降る雨というので梅雨、霪雨とも書くように、霪を生じやすくする雨なのです。

この霪は『古事記』『日本書紀』の天地創世の神話にあるごとくウマシアシカビヒコジノカミの葦牙であり、生えてくる生命でありました。そのカビの神は日本の創世記の神であり、文化を育ててカビの文化を生み出した神なのです。日本人は、このカビを味方として酒や漬物や納豆などの酵素利用の発酵食品をつくり出しました。酵素を活用するユニークな文化——とすれば敵視しそうなカビを生かした腐りの利用は、世界にも類の少ない独特の文化です。自然征服の発想を輸入した現代は、そのための公害に悩んでいます。この大自然の中で謙虚に生きてきた日本人の生活伝統を想起し、あらためて自然からの恵みを再発見したいものですね。

### 【七夕】七月七日

七夕祭りは中国の古い星の伝統がわが国の大昔からの棚機女の信仰と結びついて始まった祭事です。持統天皇の頃、宮中の五節句の一つとなりました。



中国の伝説によると、織女は天帝(北極星)の美しい孫娘で、いつも機を織ることに心をくだき、容姿を整える暇もなく、霞を織り、雲を造り、ひ

たすら天像自然の現象を美しくすることに辛苦を積んでいました。天帝はこれを憐れみ、西岸に住み農耕に励む若者——牽牛に嫁がしたので。ところが二人はその喜びにふけり、牽牛はそれきり農耕を怠り、織女は機を織ることを忘れてしまいました。天帝は大いに怒り、ついに織女を再び東岸に帰らせてしまいました。七月七日は、天帝が善法堂参詣の日で天の川の氷を汲んで甕に入れて良く日なので、天上の霊鳥である「かささぎ」が天の川に飛んできて、東西にその翼を拡げて、相愛思慕する二星を会わせてあげるので。このお話は「乞巧奠」とよぶ祭りとして伝わりました。これは、神に手功を乞うという意味で、星祭りをし、技芸の上達を祈る望みが叶うとされました。

日本では、この乞巧奠が伝わる以前より、遠い神代の時代から棚機姫信仰がありました。神代の時代、機織神として天棚機姫命という女神がおられ、天照大御神が天の岩戸へお入りになった際、神衣を織って大神に奉仕せられたといわれます。

また天孫瓊杵尊が天降りまして日向の国笠沙の御前にお立ちになった時、水辺の機屋(八尋殿)で一心に機を織りながらお待ちになっておられた少女がこの棚機女または乙棚機女で、木花咲耶姫といつて瓊杵尊の后となられたお方です。神衣を織り、静かに神の訪れを待つのが棚機女で、「機を織る」ということは、神聖な意味を持つていたようです。

古来より七月七日は、わが国固有の祖先の霊を祭る大切な祭り日とされてきました。祖先の霊を高い空に輝く星とみなして祈る思いとなったのでしよう。子供達が星空に夢を描き、その美しさ、不思議さ、宇宙の神秘に感動する心を育んでいきたいものですね。

### 家庭教育 ワンポイントアドバイス

学校や仕事に行く朝、目覚めた時に雨が降っていると「いやだな・・・」晴れたらいいのに・・・と、思ったことはありませんか。でも、雨が一ヶ月間、一年間と降らなかつたらどうなるでしょう。今年の春は雨が少なかつたですね。それで、山では、わらびやぜんまい、たけのこが生えなかつたり、きぬさややスナップエンドウ、空豆は花が咲いても実が大きくならなかつたりしました。夏野菜を植えても、成長が遅かつたようです。

私達は太陽、水、空気はあつて当たり前のように思っていますか。

ここまで書きましたところ、読んでいる本で、とても良い内容のものがあつたのでご紹介します。今月十六日は父の日だったので、それに因んだお話です。戸塚ヨットスクール校長の戸塚宏氏は「父親は、四つの仕事がある

一つは、子供を作ること。  
二つ目は、狩りをする、すなわち仕事をする事。  
三つ目は、群れを守る、すなわち家庭内で力を見せること。

四つ目は、愛国心を示すこと。  
子供の前では父親が政治をしている、すなわち家庭のことを全て決めていくという姿勢を示すこと。そのために母親は演技でもいいから父親を立てること。夕食のおかずは焼き魚と決まっていなくても「お父さん、お魚でいいかしら」と聞くだけで、家庭は安定するんです。」と書かれています。

お母さん次第で家庭が良くなり、地域も町も国も良くなるなら、最初は演技でも、私達から始め、続けてみませんか。幸せの鍵は私(お母さん)が握っています。私もあなたも名(迷)女優になりましょう。  
(門脇淑恵)

# 和歌コーナー

おかあさん かみのけみじかい

デイズニerlandに

つれていってくれて ありがとう

年中 K・Y



☆大好きなお母さんとデイズニerlandに行けて、うれしかったですね。

おかあさんと ココエに 行ったよ



二人でね アイスクリーム いっしょに食べた

小学三年 I・K

☆お母さんと二人でアイスクリームを食べる、しあわせいっぱい笑顔が浮かんできます。

(加古川こども寺子屋より)

おしゅうじ たのしかった

たいようのおかおかいたよ せんをかいたよ

年少 I・H



☆はじめて筆を持って、太陽の顔を線をいっばい楽しく書きましたね。

ようちえん みんなと行った

すいぞくかん かにとかいながら おもしろかった

年中 K・Y



☆水族館に行った時の事をすらすら和歌にできましたね。

てらこやで ばったをみたよ  
めつちやおおきいばっただったよ

年中 O・T



☆自然教室でバツタを見て、楽しかったですね。

おしゅうじが たのしかったよ 「おと」と「な」

おはなもって ばったもかわいい

年中 B・N

☆初めての書道。楽しく書いてよかったですね。  
自然教室も楽しかったですね。

おいもほり みんなでいった たのしいな

おおきいおいも おいしかったよ

年長 T・M



☆おいもほりに行った時のことを、すなおに和歌にできて、すばらしいですね。

おしゅうじを はじめてかいた たのしかった

「みず」ってかいた またかきたいな

小学一年 B・K

☆初めてなののにのびのびと良い字が書けましたね。

あじさいが きれいだった しぜんきょうしつ

ちいさくても かきだとわかった

小学一年 O・H



☆七種類のアジサイの花があつてきれいでしたね。  
小さな柿の実の赤ちゃん、かわいかったですね

声に出してひびきを味わおう

## 今月の言葉

万葉集 第一・四

第三十七代 斉明天皇 御製

たまきはる

うち おおぬ

宇智の大野に

うまな

馬並めて

あさふ

朝踏ますらむ

くさふかぬ

その草深野

(大意)

今頃は、あの広漠とした宇智の大野で、数十騎の手勢をひきつれ、相共に馬首を並べて、朝露に濡れ、丈高く伸びた夏草を縦横に踏みしだいて、朝猟にさつそうと馬を駆っておられるのであります。ああその夏草の生い繁った草深い野よ。その野をゆくあなた様の朝日に映える英姿が、眼に見えるようです。

次回は、七月二十七日(土)、六階和室です。

(文責 藤波礼子)